

ジェネリック医薬品を使用しましょう！

新薬と同等の効果を持つと認められているジェネリック医薬品は、薬品の特許が切れたのちに製造・販売されるため、開発にかかる費用が少なくなっています。そのため、ジェネリック医薬品の価格は新薬より2割から7割ほど安価になっています。

病院の窓口や薬局等でジェネリック医薬品を利用したい旨を伝えて、薬剤費の節約につなげましょう。



ジェネリック医薬品に切替えるのが不安な方は…

ジェネリック医薬品を短期間試すことのできる「お試し調剤」をおすすめします！！

例えば、2週間分のうち、1週間分だけジェネリック医薬品に変えてもらい、残りの1週間分については、ジェネリック医薬品を服薬後にどちらにするか選択することができます。

お試し調剤をするには

①薬局の窓口で「ジェネリック医薬品のお試し調剤」を希望する旨を伝える。

※お試し調剤では1枚の処方箋で通常2回に分けて薬を受け取ることになります。

②お試し分を調剤してもらい、残りの薬の受取日を確認する。

※体調の変化に気をつけましょう。服薬前にはなかった症状が現れた場合には、すぐに医師や薬剤師に相談してください。

③受取日に薬局から残りの薬を受け取る。

ジェネリック医薬品 Q & A

Q ジェネリック医薬品は新薬と同じ薬なの？

A 有効成分を同じ量含み、効能効果は基本的に変わりませんが、添加物の成分や配合量などは新薬と異なるケースもあります。ジェネリック医薬品に不安が残る方は、先発医薬品と完全に同一のオーソライズド・ジェネリック (AG) をお試しください。



Q 調剤費が無料でも関係あるの？

A 医療福祉費支給制度等該当により窓口での支払いが無料(低額)であっても、医療費は当組合と地方自治体等が負担しており、その財源は、組合員の皆さんの掛金や税金等でまかなわれています。安定した医療保険制度や医療福祉費支給制度を維持するため、ジェネリック医薬品の積極的な活用についてご協力をお願いします。



- ジェネリック医薬品は、飲み薬だけでなく、点眼薬や軟膏などの外用薬、点滴薬などもあります。
- ジェネリック医薬品は、糖尿病、高血圧、脂質異常症など、治療が長期にわたる慢性疾患の方におすすめです。また、アレルギー性鼻炎や花粉症で受診される方もジェネリック医薬品をご活用ください。